

NPO法人ミラック  
代表理事

西村 勇哉

経済学史家アンガス 表しました。その設計 ます。1964年に開  
・マディソンによる に取り組むデンマーク 業した東海道新幹線  
と、1700年の世界 の建築家ジャルケ・イ は、当時、時速210  
の総生産の推計値は6 ングルス氏は、201 上げ、現在では最高速  
43億とされておりま 9年のTEDD(ニュー 度が時速285キロと  
す。そして、2018 ヨークに本部のある非 50年間で時速75  
年の世界の総生産は85 営利団体)で行った海 なる、50年間で時速75  
兆が強と、約1321 上都市を含む様々なブ きの速度を上げまし  
倍に増加しました。投 ロジエクトの取り組み た。そして新幹線は、  
資に次ぐ投資によって の紹介を含むスピーチ  
積み上がった富の行き の中で、都市の適応  
先にとのような未来を 性について繰り返し  
描き、実現するか。私 語りました。都市が環  
たちは、実現を目指す 境に適応して形を変  
未来自体を描くことが え、未来の都市を形成 を目指すリニアモータ  
求められる時代に生き していくとしたら、そ ーカーとして進化を図  
ています。

### 未来構想と盲点化する可能性

2020年1月にア どのように描けば良 いのでしょうか。  
アメリカのラスベガスで 開催されたCES(シ 100年前、日本の  
イーエス)では、ト 旅行はまだ人力とかご ヨタが WovenCity  
(ウーブン・シティ) した。100年の間に 法則を「Cramming  
というコンセプトで 旅行の形は大きく変わ more component  
岡山裾野市に70・8万 車や新幹線、飛行機を s onto integrated  
平方メートルの都市を2 車や新幹線、飛行機を circuits」の中で述  
021年に着工して建 用いた移動を日常的に べてから50年、コンピ  
設に取り組むことを発 行えるようになってい ューティングの性能は

指数関数的なスピード は、生命の進化と異 代の変化の中で、時速  
で性能を向上させてき なり加速度的にスピー 75キロもの速度を向上  
ました。ムーアの法則 ドを上げながら進化し させた新幹線は、なぜ  
で言われる「1.5年ご ていく、という独特の 速度以外の大きな変化  
とに集積回路上のトラ 特徴を持ちます。 を生み出せなかったの  
ンジスタ数が倍にな 前述のムーアの法則 だと思ひ込まれている  
る」が50年間続くと、 では、集積回路の性能 大きい進化として、  
その数値は170億倍 の向上とそのスピード て、電源が備えられた  
を超えます。この力を 感3年で4倍、10年 大きくない進化とし  
持って、1969年に で64倍、50年で170 こと、ムーアサー  
人類を月に送り込んだ 億倍強、100年で1 ービー販売が行われ  
アポロ11号に使われた 4763京倍になり るようになったこと、  
コンピュータよりも ます。結果、2〜3年 などもあげられます。  
100万倍高い性能を のことであればそれほ 未だに、新幹線の中  
持つ機器をスマートフ ど大きくずれないもの では睡眠のサポート  
ォンという形で私たち が、10年で大きくずれ 能性があります。

50年〜100年では全 く異なるレベルに至る ことを見逃す見当違い を生み出します。未来 の姿を描くためには、  
経済学者のミシエル・ ポーは、16世紀に始ま った資本主義の進展を 徐々に速度を上げるテ  
元、現代を科学とテク クノロジーのスピード クノロジーが生活全般 感を前提として持つ必  
に染みわたるテクノサ 要があります。 ショセフ・ヴォロス  
マリーは、「The Futures Cone, use and history」の論考の中 可能性に対する自由度 を大きくします。その  
100年や50年とい う期間は多くの変化を 可能にします。一方で、 「延長上の未来(Pro jected Future)」か  
どつかは、私たち自 身の日々の選択に寄っ ています。 経済学者のジョン・

は手のひらの中に持つ ようになりました。 パリ大学名誉教授で 経済学者のミシエル・ ポーは、16世紀に始ま った資本主義の進展を 徐々に速度を上げるテ  
元、現代を科学とテク クノロジーのスピード クノロジーが生活全般 感を前提として持つ必  
に染みわたるテクノサ 要があります。 ショセフ・ヴォロス  
マリーは、「The Futures Cone, use and history」の論考の中 可能性に対する自由度 を大きくします。その  
100年や50年とい う期間は多くの変化を 可能にします。一方で、 「延長上の未来(Pro jected Future)」か  
どつかは、私たち自 身の日々の選択に寄っ ています。 経済学者のジョン・

50年という大きな時 刻(able)「そして「起 経済学者のジョン・

メイナード・ケインズ は、「現在を決めるの は、未来への選択であ る」と述べました。現 在の行動は、日々同じ ように選択しているよ うに見えて、その実、 目指す未来の違いによ って大きく変わってき ます。 2019年に立ち上 ったパナソニックの 「Aug Lab」では、 ロボティクスを機能で はなく、感性に目を向 けて拡張するために生 まれた新たな取り組み です。一般的に、こ うした新たな着眼点への 取り組みは盲点化し、 もしくは価値を見出さ れずに、気づかれない まま過ぎていきがちで す。パナソニックの「Aug Lab」は、今の延 長ではない盲点への着 目に価値を置き、積極 的に拾い上げていく姿 勢が結実したものと言 えます。こうした盲点 の価値化に取り組むこ とが、積み上がった富 の行き先としての未来 を見つけるために今求 められています。